

口コミで広がり続ける名作ドキュメンタリー
この夏、国分寺いずみホールで上映決定！

FILM 01

12:00～(開場。上映:12:30)

定員300名



故・星野道夫に捧ぐ

『地球交響曲 第三番』

FILM 02

16:00～(開場。上映:16:30)

定員300名



世界に伝えたい真実の物語

『GATE-A True Story-』

星野道夫という写真家を知っていますか。
原爆の火が60年もの間、燃やされ続けていたことを知っていますか。
鎮魂の祈りを込めて、二本のドキュメンタリー映画を上映します。

KOKUBUNJI

2010年8月14日(土) 各回入替制

CINEMA



DIALOG

1作品鑑賞 1000円(予約)・1500円(当日) 2作品鑑賞 2000円(予約)・3000円(当日)

作品詳細情報は >>> <http://www.office-kaleido.com/cinemadialog>

FILMO 1

TIMETABLE

12:00~

『地球交響曲第三番』
受付開始

13:15~

『鎮魂水晶倍音浴』
(クリスタルボウル奏者：
まがり/じゅん/
山本コラジ)

13:30~

『地球交響曲第三番』
上映開始

16:00

『地球交響曲第三番』
上映終了

16:00

入れ替え

ガイア
地球の心が見えてきます。いのちの不思議が聴こえてきます。

龍村仁 監督作品

『地球交響曲 第三番』

ガイアシンフォニー

1996年8月8日カムチャツカで熊に襲われて亡くなった写真家星野道夫が、第三番では最も重要な出演者として描かれています。当日は『地球交響曲第三番』上映前にクリスタルボウル奏者3名による特別演奏『鎮魂水晶倍音浴』を行います。



星野道夫(写真家)



ナイノア・トンプソン(外洋カヌー一航海者)



フリーマン・タイソン(宇宙物理学者)

「地球の声がきこえますか。」という呼びかけで始まる映画『地球交響曲』は、地球環境の美しさ大切さを訴えかけるだけでなく、一人一人の心の無限の可能性に言及する「こころの映画」として、大きな反響を呼んできました。

1992年11月「第一番」を初公開して以来、2年半後の1995年4月に「第二番」を公開。現在でも各地で毎日のように上映が続いて、1997年夏までに全国2千ヶ所近く百万人の方々にご覧いただいております。

『地球交響曲第三番』は、1996年8月8日カムチャツカで熊に襲われて亡くなった写真家星野道夫と行くはずだった、南東アラスカから北極圏への壮大な大自然の中での旅を線糸にして、彼が魂を分かち合った人々に出会って行きます。

その旅と出会いの中で、人間にとっての生と死の意味、文化・文明の意味を問い続けます。

宇宙物理学者フリーマン・タイソンは、宇宙のスケールで循環する生命の意味を、豊かな科学的視野と人間への深い洞察力から話してくれます。

撮影は野生のオルカ達が集まってくるカナダ・ブリティッシュコロンビア州のハンソン島。

タヒチからハワイまでかつて祖先達が渡ってきた外洋カヌーの航海を今に甦らせた、ハワイ先住民民族ナイノア・トンプソンは、我々の祖先がいかに高度な能力と文化を持っていたかを想い起こさせてくれるとともに、その記憶の甦りがいかに大切かを示してくれます。

KOKUBUNJI

CINEMA



DIALOG

Cinema Dialog:共に学ぶ「共育」をテーマに映画を通じて対話の場を作り出す。各回入替制

2010年8月14日(土) @ 国分寺いずみホール

1作品鑑賞 1000円(予約)・1500円(当日)
2作品鑑賞 2000円(予約)・3000円(当日)

企画・運営
オフィスカレイド/AmebaTEAM
http://www.office-kaleido.com/

定員 各300人 ※定員になりしだい締め切ります。予約で定員に達した場合、当日券の販売はありませんのでお早目のご予約をお願い致します。

ご予約・お問い合わせ e-mail: info@office-kaleido.com TEL.090-2556-8733 (担当 山本)

FILMO 2

TIMETABLE

16:00~

『GATE』
受付開始

16:30~

『GATE』
上映開始

18:15

『GATE』
上映終了

18:15

ダイアログ

当日、GATE公式グッズを販売します。収益金は核兵器の解体へとつながります。

Message

お盆の時期ではありますが、皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

最後にこの様な上映会がCinema Dialogとして地域の交流の場になればと思います。



マット・テイラー監督

A TRUE STORY

GATE

— 世界に伝えたい真実の物語 —



広島に落とされた原爆の火は、その後60年間絶やすことなく燃やし続けられました。その「火」を世界最初の原爆実験の地に戻し、同じ悲劇を二度と繰り返さないと願った僧侶たちの物語です。

今、始まりの地へ。25日間、灼熱の2,500km。
60年前に開いた禁断の輪を閉じる、祈りの旅

この世に二度と同じ悲劇を起こさないと願ったある日本の僧侶たちの祈りの行脚を、ヒューマンドラマとして記録したドキュメンタリー。2005年7月、僧侶たちは、アメリカンインディアン、色々な宗派の平和団体と共に、サンフランシスコから、世界最初の原爆実験の場所であるアメリカ・ニューメキシコの「トリニティーサイト」まで、砂漠、山、250以上の街を越え、2500kmの旅をした。この世に同じ悲劇が繰り返されることのないようにと、広島原爆で起きた火を、60年もの間燃やし続けていた奇跡に近い事実と折り続けた60年間。すべてが始まった原点にその火を戻し、そこで消し去ることで、負の連鎖を絶ち永遠に眠らせる。トリニティーサイトのゲイトは開かれるのだろうか。この僧侶たちは、目的地であるトリニティーサイトへいったいどのようにして辿り着けたのか…

製作総指揮: マット・テイラー監督 世界核兵器解体基金 代表



世界核兵器解体基金 GND Fund

「核兵器がもともと私たちの税金で作られたのなら、税金を納めている私達がそれらを買戻す権利があるのではないかと、」非常にシンプルな疑問から始まった。ノーベル平和賞受賞者たちや、エンターテインメント業界などにより設立された非営利団体。

GND Fundはサンフランシスコ、モスクワ、東京のオフィスを主な拠点とし、核兵器、原子力潜水艦の解体の公的な参加を積極的に進めています。またGND Fundでは、解体した核兵器から取れる放射性のない金属をリサイクルしたアクセサリ等の製品を世界中の市場に流通させ、そこから生まれた収益をさらなる核兵器解体活動へ結びつけさせる。世界中の人々がいつでもこの核兵器解体プロセスに参加できるシステムを作り上げてきました。このユニークなアプローチによって唯一無二の解体サイクルが確立されてきています。



(ジョセフ ロートブラッド博士
1995年ノーベル平和賞)